

北尾謙治・北尾キャスリーン (1988) 「ポライトネス - 人間関係を維持するコミュニケーション手段 -」『日本語学』, 第7巻第3号, 52-63

文責：西郡 仁朗

【要旨 (文責者による)】

Brown and Levinson が提唱しているポライトネスは人間関係を円滑にするために、相手の負担を軽減したり、相手をほめたり、認めたりするコミュニケーション手段であり、人間のコミュニケーション活動全般に関わるものである。ポライトネスにはポジティブポライトネスとネガティブポライトネスがあり、それぞれの特徴を持つ。またその方法も様々なものがあり、日米で共通するものもあれば、全く異なる部分もある。この論文ではポライトネス理論の概要を明らかにし、コミュニケーションの際のポライトネスの使われ方を示している。

はじめに

Communicative competence (コミュニケーション能力)・・・言語だけでなく非言語的手段 (ジェスチャー、表情、声の調子、服装、姿勢) を使って効果的なコミュニケーションを行う能力。ポライトネスはその重要な要素の一つ。

ポライトネスの役割・・・人間関係を円滑にするために、相手と親密な関係を保ち、相手に負担をかけないようにする。

Brown and Levinson の分析・・・ポライトネスの本質は言語や文化に関わらない普遍的なコミュニケーション手段であるが、日米の文化の相違により使用方法が異なる。

Leech の分析・・・人に何かをしてもらう場合 (依頼、要求、命令)

人に何かをしてあげる場合 (招待、申し出、ほめる、祝う)

依頼

依頼：話し手が聞き手に何かをしてもらうように頼む。話し手は聞き手に負担をかけ、犠牲を払う。

- ・ 絶対的負担：実際に受ける負担
- ・ 相対的負担：聞き手が感じる負担

聞き手は絶対的な負担をそのまま感じるのではなく、親密度、地位関係、必要性、聞き手の能力などの要因によって増減された相対的負担を感じる。

ポライトネス

- ・ ネガティブポライトネス・・・自己の存続の欲求のため、負担を減少するコミュニケーション手段
- ・ ポジティブポライトネス・・・社会の一員としての存続の欲求のため、認めたり、仲間とみなすことを増加するコミュニケーション手段

- 話し手は両ポライトネスをうまく使用して依頼したことを相手にさせる。
- 依頼の内容が大きくなるほど、関係が親密でないほど、聞き手の地位が高いほどポライトネスは必要度を増す。
- 地位の差 > 親密度

ポライトネスの使用方法

I ポライトネスの不使用

聞き手の負担を軽減せずに強い命令として行われる。依頼者の地位がよほど高くなければ、人間関係が損なわれやすい。

II ポジティブポライトネス

聞き手の認められたいという意識を満足させるもので話し手が聞き手に親密な行動をとる。聞き手の負担軽減度は少なく、丁寧さは低い

- ・ 3つの手段
 - a. 共同の基盤に立っていること
 - b. 話し手と聞き手が協力関係にあること
 - c. 聞き手の要望に応えることを表明すること

III ネガティブポライトネス

他人からの負担を免れたいという聞き手の自己保存の欲求を満足させるもの。話し手が聞き手に敬意を示す。

- ・ 4つの手段
 - a. 聞き手が依頼内容をしてくれると推測しないこと
 - b. 依頼内容を強制しないこと
 - c. 聞き手に負担をかけないことを示すこと
 - d. 負担を軽減すること

IV 負担を直接かけない方法 (off record)

間接的な表現を使用し、依頼したかどうかは聞き手の判断に委ねられる。

1. 聞き手に文字通りでないコミュニケーションであることを知らせる。
2. 何を意味しているのか察知させる

上記1.の手段: Griceの談話の規則 (註: 会話の公準)

- a. 妥当な情報量を提供する (量)
- b. 真実の情報のみ伝える (質)
- c. 状況に妥当な情報のみ伝える (関係)
- d. 曖昧さ、不明確さを避け、簡単明瞭にする (仕方)

日米ポライトネスの違い

I 負担の重さ

日・・・依頼を断りにくく、その負担が重い。依頼を避けようとする。ネガティブポライトネスを使用し負担を減少させようとする。ただし、二人の関係が親密ならば大きい依頼も簡単に行う。

米・・・依頼を断りやすく、負担も軽い。依頼は気楽に行われ、ポジティブポライトネスの使用が多い。親密であっても断られるので大きな依頼はあまりされない。

II 地位の差

日・・・地位の差が細分化されている。地位の差を明確にしようとする。組織での地位、学歴、年齢が影響→ポライトネス使用に影響

米・・・地位の差は少なく、明確にしない傾向→ポライトネス使用に影響少ない

III 自己保存の欲求

日・・・人々の交わり自体が負担（招待や申し出を含む）。人に負債を持ちたくないという自己保存の欲求強い。

米・・・負債の感覚が薄い。依頼・招待などの交わりは負担にならない。

IV ポジティブポライトネスの使い方

日・・・ごく親しい人に使用

米・・・見知らぬ人にも使用

ポライトネスの数式と仕組みの図式

相対的な負担 = 絶対的な負担 × 相対的な距離 × 状況的な変数

(相対的な距離 = 親密度 × 地位の差)

(状況的な変数 = 必要性 + 容易さ + 文化的な変数)

おわりに

目的達成のため

好ましい人間関係を維持するため、ポライトネスを複雑に組み合わせて使用

→相手の反応を敏感に読み取る

→ポライトネスの使用方法を変化させる

【注意】本文中のかなり深刻な誤り

(正) 「相対的な負担 = 絶対的な負担 × 相対的な距離 × 状況的な変数」

(誤) 「相対的な負担 = 相対的な負担 × 相対的な距離 × 状況的な変数」